

令和3年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究年度終了報告書

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する  
評価ツールの開発のための研究

「相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携の実態理解」

研究分担者 金澤潤一郎 北海道医療大学

研究要旨

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者における連携について、その実態を明らかにするとともに、連携評価ツール開発に向けた基礎資料を得ることを目的とした。研究組織で作成に取り組んだ調査票による全国アンケート調査を行った結果、2951件の回答が得られた。回収された調査票について職種別に集計を行ったところ、各職種の連携に関する実態について明らかとなった。

A.研究目的

相談支援専門員と、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下、サビ児管）の連携に関する実態把握とともに、連携評価ツール開発に向けた基礎資料を得ることを目的とした。

B. 研究方法

研究組織で作成、合計9,000件の全国調査調査を行った連携に関する調査票（基本項目12項目、連携に関する項目57項目）について単純集計を行った。また、相談支援専門員（主任相談支援専門員を含む）、サビ児管（サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者）の職種別に分類し、その実態について明らかにした。

（倫理面への配慮）

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会による審

査の上、承認を得て実施した。

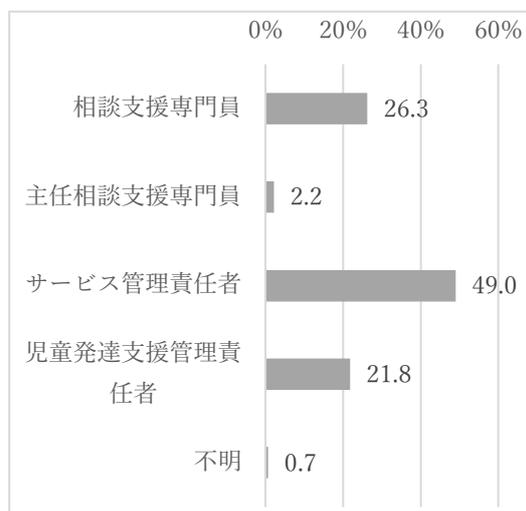
（21N020020、21N028027）

A. 研究結果

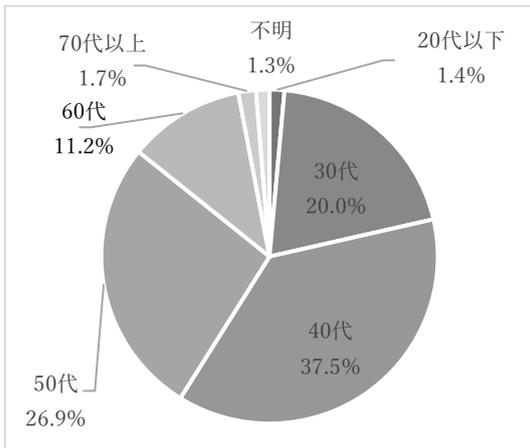
配布した9000件のうち、2951件の返送が得られた（回収率32.78%）。

（1）回答者の基本事項（n=2951）

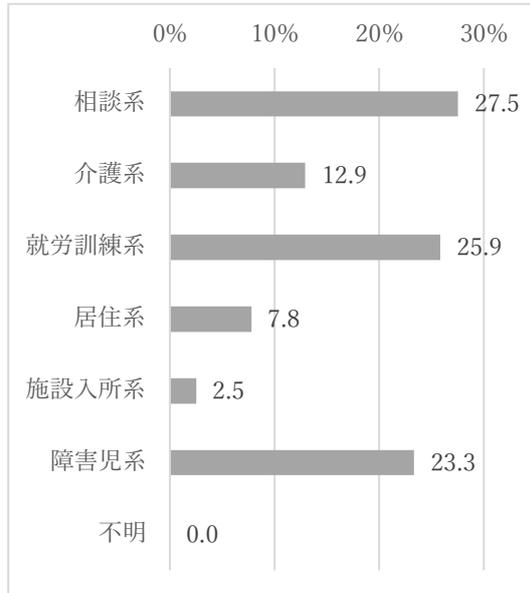
<職種>



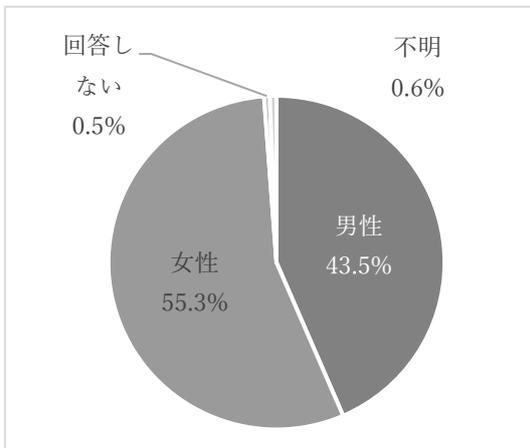
<年齢>



<所属事業所のサービス種別（系統別）>



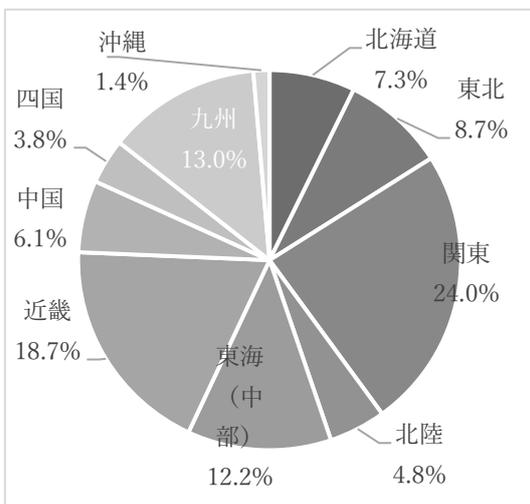
<性別>



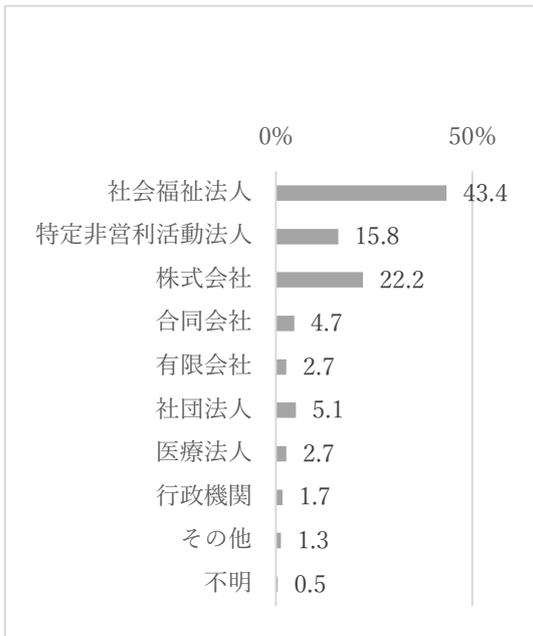
<主な支援対象障がい>



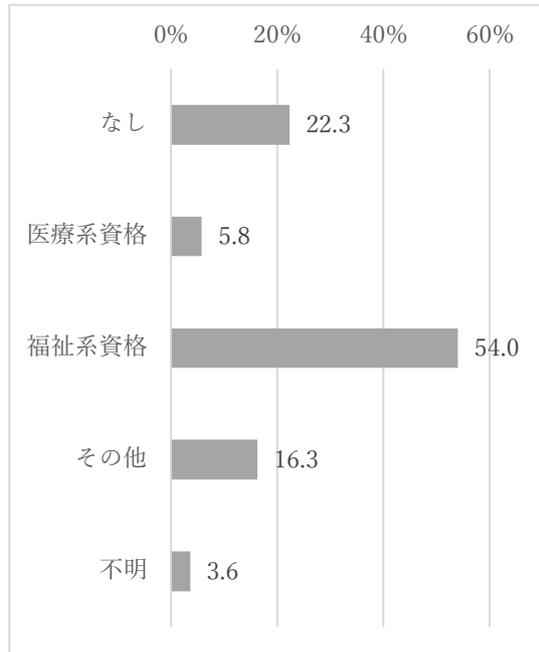
<地域区分>



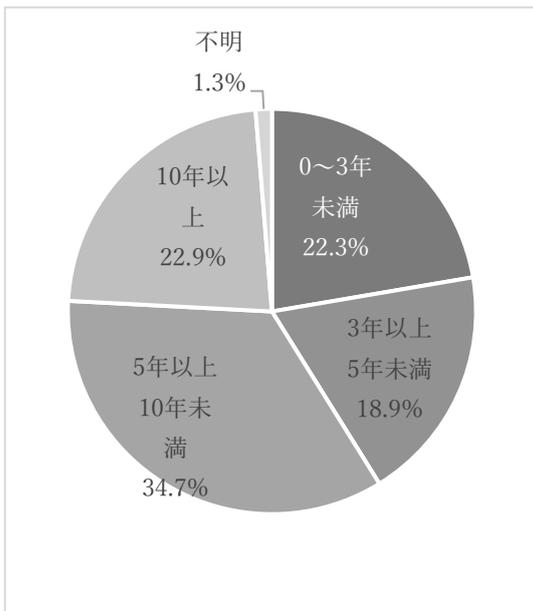
<事業所運営法人種別>



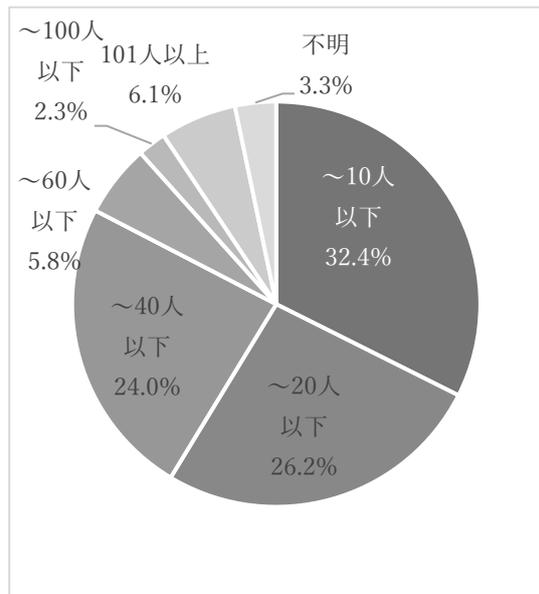
<主となる保有国家資格等>



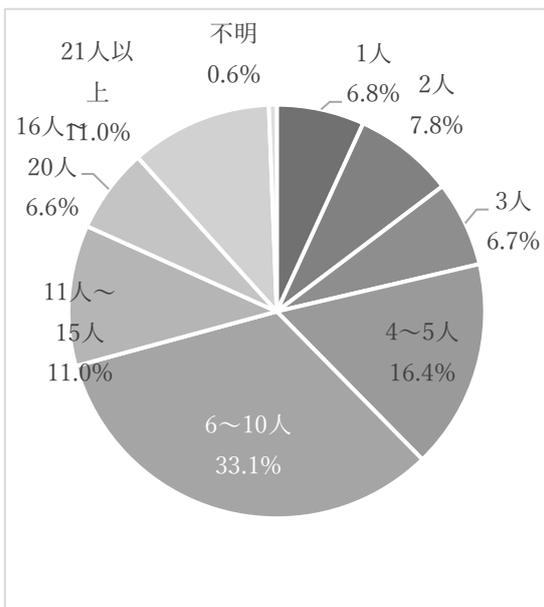
<現在の職種経験年数>



<一月当たり（1年間の平均）の担当利用者数（相談支援は計画担当者数）>



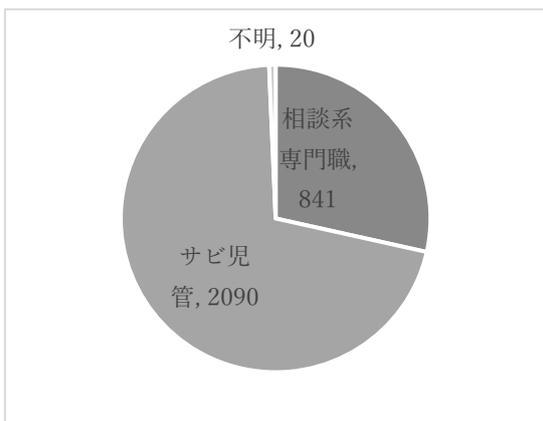
＜所属事業所職員数＞



(2) 相談支援専門員（相談支援専門員・主任相談専門員）とサビ児管（サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者）に分類した単純集計結果（抜粋）は以下の通りであった。

＜職種別＞

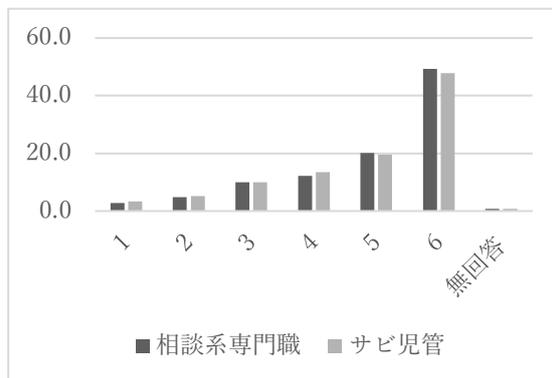
相談支援専門員（相談支援専門員、主任相談支援専門員）841件、サビ児管（サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者）2090件、不明20件であった。



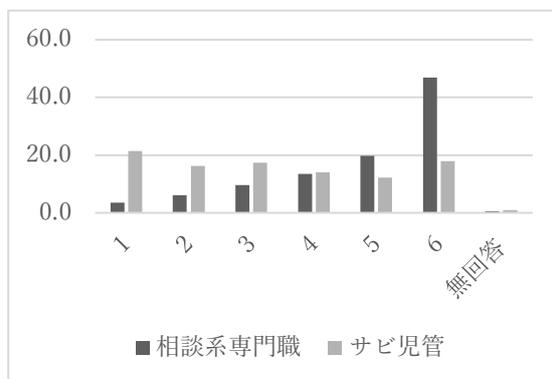
以下は、不明20件を除いた回答の割合を示した。回答はそれぞれの設問に対して、「1：全く当てはまらない」～「6：十分に当てはまる」であった。

※縦軸単位は「%」とし、相談支援専門員（n=841）、サビ児管（n=2090）ごとの回答数における割合を表す。

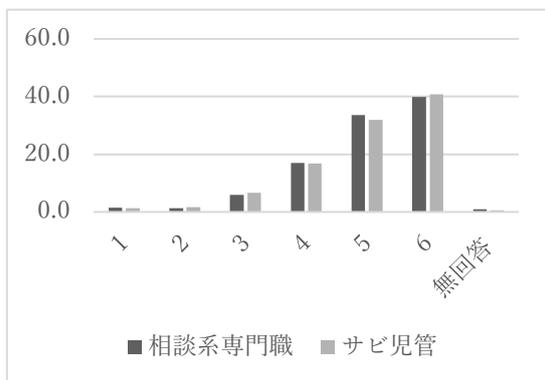
＜相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している＞



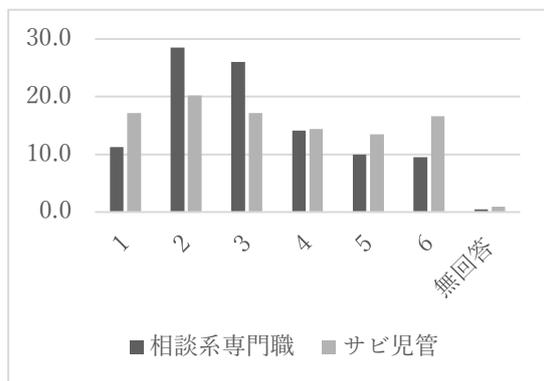
＜相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している＞



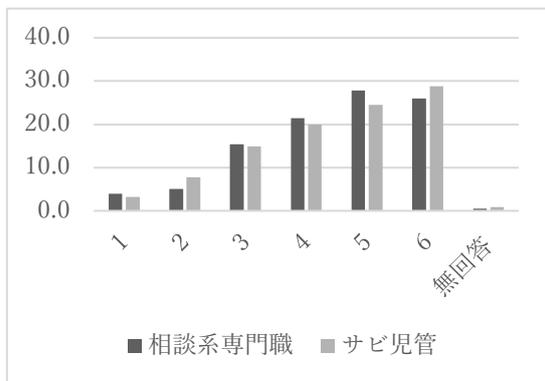
＜利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている＞



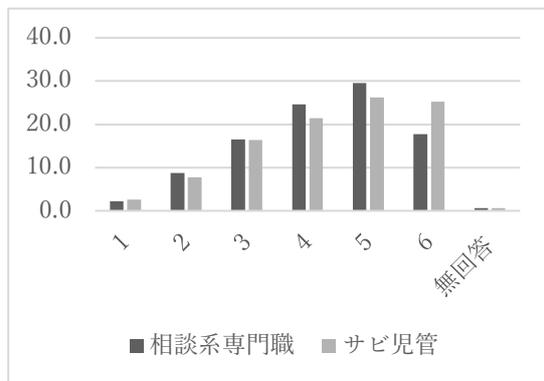
＜支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している＞



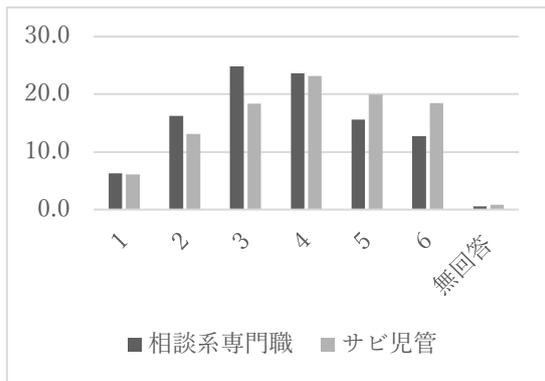
＜サービス等利用計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している＞



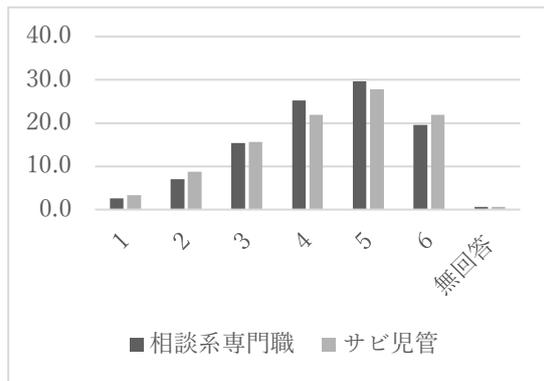
＜必要な情報はリアルタイムに（素早く）相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている＞



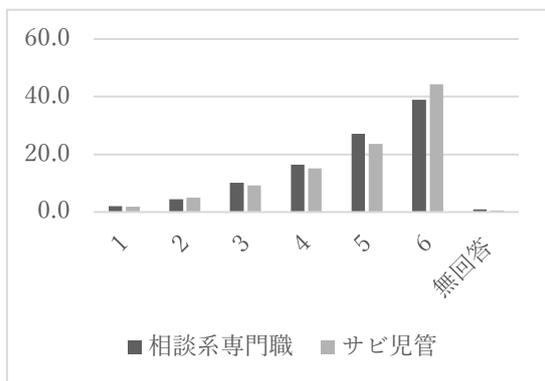
＜個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している＞



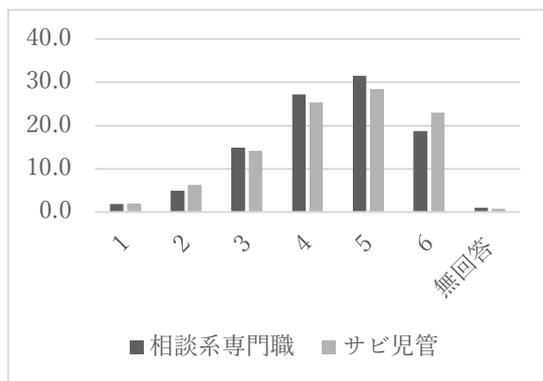
＜定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている＞



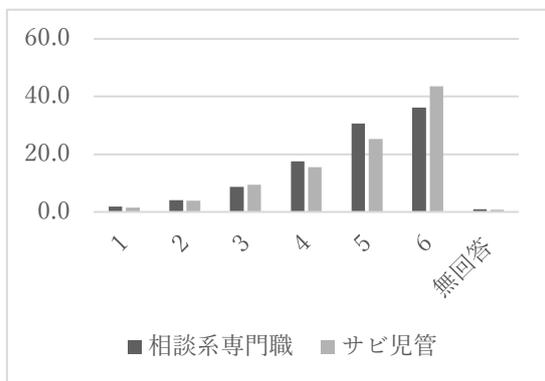
<担当利用者のことでかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている>



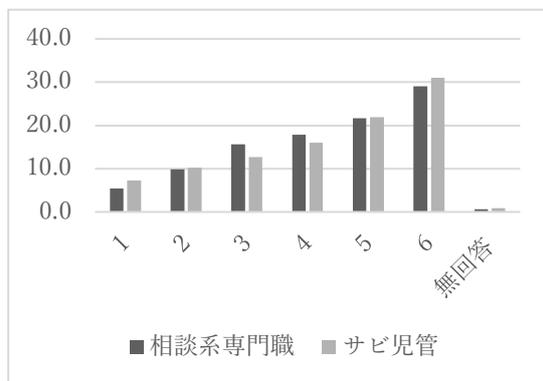
<利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる>



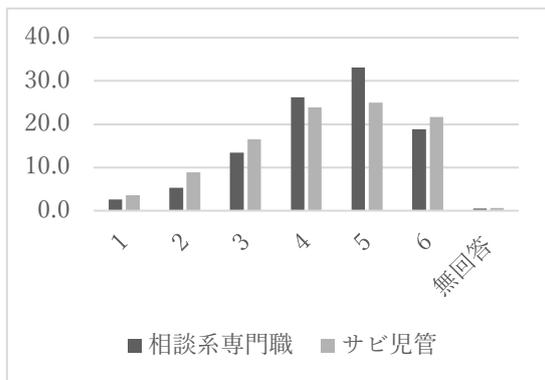
<担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる>



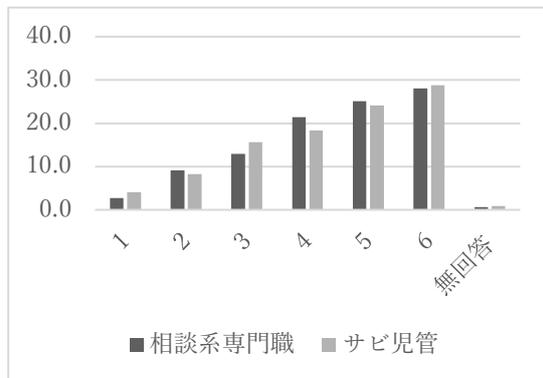
<所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる>



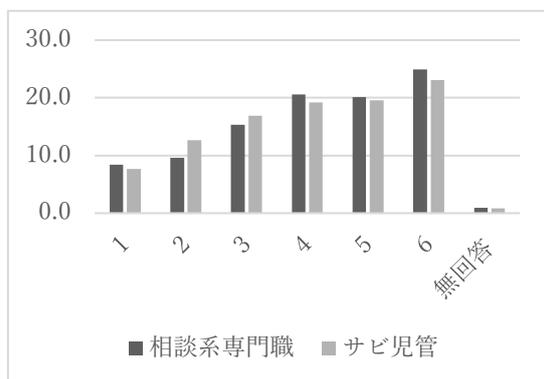
<担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている>



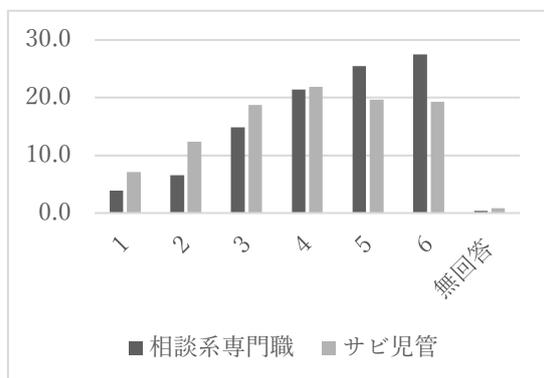
<メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている>



<所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある>



<所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある>



#### D. 考察

「相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議に参加している」「利用者の支援を検討する会議での内容を支援計画に反映させている」といった業務として求められるような連携の行動に関するものについては、実施している割合が高い傾向がみられた。一方で、相談支援専門員とサビ児管の二者間としての関わりに比べ、「支援計画書について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している」といったような三者以上とのやり取りを含む内容では、実施している割合が低く

なる傾向がみられた。また、「担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている」「利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる」といった関係性が関連する項目については、回答が中央による傾向がみられた。

連携評価を検討するにあたり、客観的な視点としての行動的側面だけではなく、各専門職自身が相手との関係性をどのようにとらえているのかといった主観的な要因も含めて、十分に検討していくことの必要性が示唆された。

#### E. 結論

本研究から、全国的な相談支援専門員とサビ児管における連携の実態について基礎的資料を得ることができた。今後は、地域や属性による特徴の違いなどについて詳細な分析を進めていくことも検討が求められる。また、実態として明らかとなった結果から、連携を評価するための尺度及びツールの開発を進めていく。そのためにも、今後として、因子分析を含め、詳細に分析を進め、尺度項目や評価ツールの開発を進めていく。

#### F. 健康危険情報

特記事項なし

#### G. 研究発表

特記事項なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

特記事項なし